令和4年度和歌山県学習到達度調査（中学校）12月調査結果概要

1　調査の概要

(1)　調査日　令和4年12月8日（木）

(2)　調査の目的

　県内の中学校における生徒の学力の定着状況をきめ細かく把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における生徒への学習指導の改善・充実に役立てる。

(3)　調査内容

調査を実施した学校、生徒、教科

公立の中学校第1・2・3学年、義務教育学校後期課程第1・2・3学年、
特別支援学校中学部第1・2・3学年

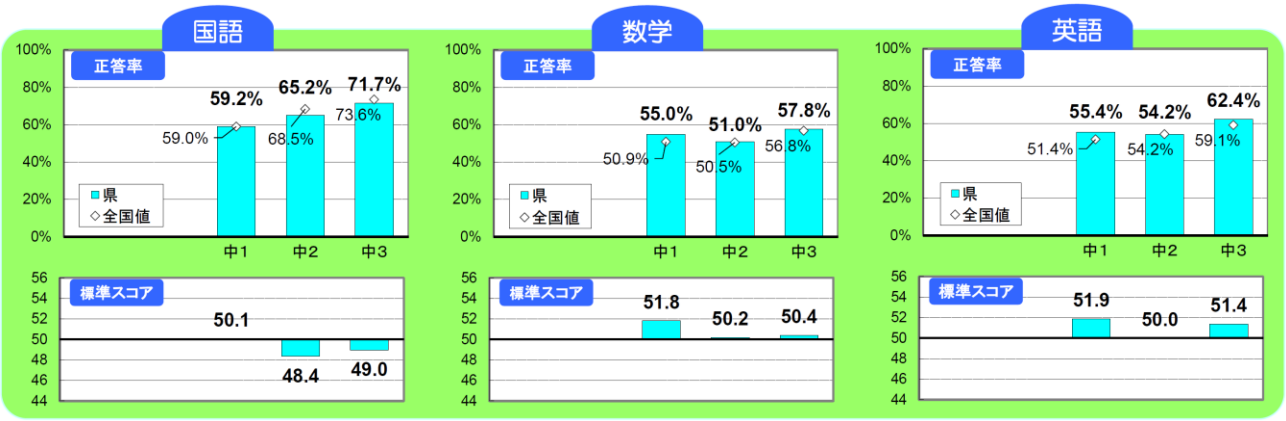
学　年	学校数	生徒数	実施教科
中学校第1学年	116校	6，087人	国語　数学　英語
中学校第2学年	116校	6，208人	
中学校第3学年	119校	6，234人	

2　結果の概要

【標準スコア】 全国の平均正答率を50としたときの換算値

年度・月	国　語			数　学			英　語		
	第1学年	第2学年	第3学年	第1学年	第2学年	第3学年	第1学年	第2学年	第3学年
R4　4月	49.2	49.2		50.5	50.6		50.9	49.8	50.0
R4　12月	50.1↑	48.4↓	49.0	51.8↑	50.2↓	50.4	51.9↑	50.0↑	51.4↑

※ ↑↓は、標準スコアの4月調査からの変動を表しています。第3学年は、全国学力・学習状況調査にて国語・数学・理科の調査を実施したため、4月調査では国語・数学を実施していません。そのため、4月調査からの標準スコアの変動を表す↑↓の記載はありません。



3 各教科の成果と課題（国語）

第1学年

【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率（%）		
		県	全国	差
3（2）	単語について理解している。	55.2	48.4	＋6.8

設問番号	出題のねらい	正答率（%）		
		県	全国	差
5(2)	表現の効果について、根拠を明確にして考えている。	62.0	58.1	＋3.9

【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率（%）		
		県	全国	差
3(4)	ことわざについて理解している。	38.1	38.1	0.0

ことわざの意味を理解しているかを見る問題である。ことわざについては、意味を間違えやすいもの、似たような意味のもの、反対の意味のものなどを一度整理して、押さえておくよう指導する必要がある。さらに、ことわざを使った短文作りを行うなど、使う場面を想定しての学習も、随時取り入れていきたい。

設問番号	出題のねらい	正答率（%）		
		県	全国	差
7	自分の考えを明確にして書いている。	36.2	42.5	－6.3

第二段落には、第一段落で書いたことを踏まえて、「AとBのどちらの紹介カードの方がこの本を読んでもらえると思うか、自分の考えと、その理由」を書く。理由については、第一段落を書き始める前に、列挙しておくとよい。その際に、問題用紙の余白の部分に、考え付くことをできるだけメモする。頭の中だけで処理するのではなく、視覚化することにより、さまざまな点から考えを広げていくようにするとよい。

第2学年

【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率（%）		
		県	全国	差
2(2)③	小学校で学習した漢字を正しく書いている。	73.3	68.6	＋4.7

設問番号	出題のねらい	正答率（%）		
		県	全国	差
4(2)	情報と情報との関係について理解し、目的に応じて複数の情報を整理しながら内容を解釈している。	59.0	58.9	＋0.1

【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率（%）		
		県	全国	差
5(2)	文章を読んで考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを深めている。	41.5	45.8	－4.3

文章を読んで自分の考えを広げていくためには、知識や経験と結び付けたり、他者と考えを交流したりしていくことが有効である。文学的な文章では、同じものを読んでも、考えたり感じたりするところに違いが出る。そうした違いを交流することで、考えが深まったり新たな発見があったりする。本問では、「祈りにも近い決意」という表現をめぐり、「金子さん」の話したことから、「森下さん」が何かに気付いていることが分かる。さまざまなことを結び付けながら読むことを、指導者も意識していきたい。

設問番号	出題のねらい	正答率（%）		
		県	全国	差
6(3)	情報と情報との関係について理解し、読み手からの助言を踏まえ，自分の文章の改善点を見いだしている。	36.5	44.6	－8.1

サンゴを守るための取り組みについて、元の表現を書き直す必要がある。その際の条件が【助言①】と【助言②】である。【助言①】では、「中学生でも取り組みやすい例」を入れたいことが述べられている。それを【資料】の内容から探すと、「エアコンの設定温度を控えめにする」と「電気をこまめに消す」が当てはまる。また、【助言②】では、「呼びかけるような表現」に直すことが述べられている。このように複数の情報を関連させて問題解決を図ることについては、学習を積み重ねていく必要がある。特に、発問や課題を工夫していきたい。

第3学年

【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率（%）		
		県	全国	差
2(2)③	小学校で学習した漢字を正しく書いている。	70.8	69.4	＋1.4

設問番号	出題のねらい	正答率（%）		
		県	全国	差
3(1)	助動詞について理解している。	72.6	72.4	＋0.2

【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率（%）		
		県	全国	差
3(2)	慣用句について理解している。	46.5	52.6	－6.1

慣用句については、意味だけでなく、使い方についても理解させる必要がある。慣用句には、身体の一部を使ったものや、動物を使ったものも多い。それらを書き出してまとめさせることで、慣用句を身近なものとして感じさせたい。それ以外にも、よく使われる慣用句については、短文作りをしたり、日常生活の中の表現として使ってみたりする活動により、単なる知識ではない言葉の力として身に付けさせたい。

設問番号	出題のねらい	正答率（%）		
		県	全国	差
7(3)	互いの発言を生かしながら話し合い、合意形成に向けて考えを深めている。	27.6	29.0	－1.4

関口さんは、予定が書け、次の月が載っているカレンダーがよいとしており、アは、予定は書けるが、5月になると次の月の6月が見えない。これは条件1と2から考えたものであるが、「条件」はヒントや考えるためのステップになっていることを理解させたい。なお、企画を作り上げる過程には、さまざまな問題があり、それを解決するために、全員の考えをまとめながら合意形成することが求められる。そうした合意形成に向けての話し合いの意義や方法について、実際の話し合いを通して指導していくとよい。

3　各教科の成果と課題（数学）

第1学年

【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率（%）		
		県	全国	差
11(4)	反比例の式から、そのグラフをかくことができる。	57.8	43.6	＋14.2

設問番号	出題のねらい	正答率（%）		
		県	全国	差
14(1)	垂直な2直線の関係を表す記号について理解している。	80.6	73.1	＋7.5

【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率（%）		
		県	全国	差
3	素因数分解ができる。	56.4	56.8	－0.4

誤答の原因としては、素因数分解や素数の意味について理解できていないことが考えられる。素数について理解できていない生徒には、具体的な数を挙げて、1とその数自身以外に約数をもたない数であることを確認させる。さらに、素因数分解について理解できていない生徒には、自然数を素数の積に分解することであることを、具体的な数を挙げて理解させることが大切である。

設問番号	出題のねらい	正答率（%）		
		県	全国	差
16(2)	正三角形の個数からコインの個数を求める式について説明することができる。	8.9	11.8	－2.9

誤答の原因としては、図と関連付けて、どのように説明すればよいのかが分からないことが考えられる。歩美さんの説明を参考にして、囲みの中のコインに着目し、浩平さんの考えた図では、1つの囲みに何個のコインがあるのか、その囲みはいくつあるのかを考察することで、囲まれていないコインにも着目することができる。そのことにより、コインの個数が、合わせて9＋8（n－1）個になることを理解させたい。

第2学年

【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率（%）		
		県	全国	差
15(1)	命題の仮定と結論を区別し、与えられた命題の結論を読み取ることができる。	79.0	67.1	＋11.9

設問番号	出題のねらい	正答率（%）		
		県	全国	差
16(3)	各位の数の和が9である3けたの自然数について成り立つ事柄を表現することができる。	32.0	25.2	＋6.8

【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率（%）		
		県	全国	差
2(3)	分数を含む多項式の計算ができる。	30.0	37.6	－7.6

誤答の原因としては、通分や符号の処理についての理解が不十分であることが考えられるが、文字式の計算は確実にできるように指導する必要がある。本設問を使って授業を行う際には、誤りのある計算を示し、正しい計算の仕方を確認する場面を設定することが考えられる。また、計算技能を高めるために、$(x+8y)-(3x-y)$ といった既習の多項式の計算に取り組ませることも大切である。

設問番号	出題のねらい	正答率（%）		
		県	全国	差
17(2)	特定の冊数を超えた場合、A社が最も得であることを、グラフを用いて求める方法について、説明することができる。	4.6	10.3	－5.7

誤答の原因としては、どの点に着目すればよいのか、どのように方法を説明すればよいのかが分からないことなどが考えられる。「ある冊数」を【大輔さんのかいたグラフ】から読み取る方法を説明するのであるから、「A社のグラフとC社のグラフの交点の x座標を読み取る」といった説明をする必要があることを理解させたい。普段から、グラフの傾きや交点の意味などを考えさせる指導を行うことが大切である。

第3学年

【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率（%）		
		県	全国	差
11(2)	関数 $y=ax^2$のグラフを読み取ることができる。	75.6	72.2	＋3.4

設問番号	出題のねらい	正答率（%）		
		県	全国	差
15(2)	相似な図形の性質から、辺の長さを求めることができる。	56.9	47.9	＋9.0

【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率（%）		
		県	全国	差
7(3)	解の公式を使って、二次方程式を解くことができる。	42.4	50.0	－7.6

誤答の原因としては、解の公式を曖昧にしか覚えていないこと、解の公式の計算（符号など）で間違ったこと、因数分解を利用して解こうとして間違ったことなどが考えられる。平方根の考えを使った解き方、因数分解による解き方、解の公式を使った解き方の3つを状況に応じて用いることができるように、繰り返し指導の中でしっかり習熟させることが大切である。

設問番号	出題のねらい	正答率（%）		
		県	全国	差
10	$y=ax^2$のa の値とグラフの形の関係について正しいグラフを選ぶことができる。	39.3	40.2	－0.9

$y=ax^2$のグラフについて、（ⅰ）原点を通る（ⅱ）y 軸について対称な曲線である（ⅲ）$a>0$のときは上に開いた形、$a<0$のときは下に開いた形になる（ⅳ）a の値の絶対値が大きいほど、グラフの開き方は小さくなるなどの特徴を理解させる必要がある。

3 各教科の成果と課題（英語）

第1学年

【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率（%）		
		県	全国	差
5（1）②	対話文を読み、基本的な語形・語法を理解している。（疑問詞whose）	72.2	60.5	＋11.7

設問番号	出題のねらい	正答率（%）		
		県	全国	差
9（2）	対話の流れに合った英文を、相手に伝わるように書いている。（how manyを使って数をたずねる）	32.8	16.5	＋16.3

【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率（%）		
		県	全国	差
2（3）	対話の内容を聞き、適切に応答している。（デパートはどこかとたずねられて）	46.1	49.4	－3.3

誤答の原因として、Where is it?の代名詞itが何を指すのか理解できなかったことが考えられる。授業においては、代名詞を含む簡単なスピーチを聞く等の活動を取り入れ、代名詞が何を指しているかを確認するとよい。疑問詞については、日常の授業で、教師と生徒、また生徒同士でやりとりを行う等の活動を通して繰り返し指導し、定着させる必要がある。

設問番号	出題のねらい	正答率（%）		
		県	全国	差
10	自分が好きな月について、まとまった内容で紹介する英文を相手に伝わるように書いている。	49.1	50.8	－1.7

本問では、つながりがよい英文を書くことが求められている。結論や自分の意見のほかにその理由なども述べる場合には、英文の書き方として、結論を最初に書いて、次にその理由や具体的な説明を付け加えて文章の内容を徐々に詳しく示していく等、文章の構成についても指導していくとよい。また、普段から自分の思いや考えを書く活動を取り入れていくことが大切である。

第2学年

【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率（%）		
		県	全国	差
6（1）④	対話文を読み、基本的な語形・語法を理解している。（mustの否定文）	53.9	46.9	＋7.0

設問番号	出題のねらい	正答率（%）		
		県	全国	差
9（2）	基本的な文の語順を理解し、正確に書いている。（how manyで始まるThere is [are]～.の疑問文）	28.4	18.9	＋9.5

【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率（%）		
		県	全国	差
2（1）	対話の内容を聞き、適切に応答している。（次の日曜日はどうかとたずねられて）	66.4	74.1	－7.7

how aboutは前出の内容について「どうですか」と尋ねていることが多いので、その部分が何であるかを理解する必要がある。授業においては、教科書本文のHow about～の部分を「～はどうですか」と訳すだけで終わるのではなく、何についてhow aboutと尋ねているのかを確認し、正しく理解しているかどうかを把握することが大切である。

設問番号	出題のねらい	正答率（%）		
		県	全国	差
7（3）①	対話を読み、対話の流れと資料から必要な情報を把握して人物の適切な発言を判断している。	42.9	46.7	－3.8

まとまりのある文章から必要な情報を読み取る力を習得させるには、授業において、相手に情報を伝える手段である広告やパンフレット、メール文等から、自分が必要とする情報を読み取る活動を行うことが効果的である。また、教科書本文の指導の際に、任意の箇所にオリジナルで1文を付け加えるといった活動も効果的である。

第3学年

【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率（%）		
		県	全国	差
4	日常的な話題についての英文を聞き、要点を捉えている。	52.6	36.2	＋16.4

設問番号	出題のねらい	正答率（%）		
		県	全国	差
8（4）	長文から必要な情報を読み取り、感想を述べている。	71.5	52.0	＋19.5

【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率（%）		
		県	全国	差
2（1）	対話の内容を聞き、適切に応答している。（演奏歴をたずねられて）	72.8	75.2	－2.4

誤答の原因として、How long have you～?の問いかけに対する応答の表現を理解できていないことが考えられる。疑問詞については、日常の授業の中で、直接生徒とQ＆Aを行ったり、生徒同士のペア活動でやりとりを行わせたりする等の活動を通して、繰り返し指導し、定着させる必要がある。

設問番号	出題のねらい	正答率（%）		
		県	全国	差
8（3）	長文を読み、その要点を捉えている。	53.1	63.6	－10.5

本問の場合、全体のテーマに結び付く内容が本文の後半に書かれていることから、最後までしっかりと読むことが要求される。まとまりのある英文の要点を捉える活動の例としては、最も大事だと思う文に印をつけたり、各段落にタイトルをつけて比較したりすること等が考えられる。